



歴博暮らしの植物苑だより

暮らしの植物苑観察会 暮らしの植物苑東屋 13:30~

第118回 1月24日(土)『武蔵野の平地林の保全』 犬井 正 (独協大学)

第119回 2月24日(土)『ブナの本と木地屋の世界』 中川 重年 (本館客員教授)

今週のみどころ <http://www.rekihaku.ac.jp>

冬の華・サザンカ展開催中

カンツバキ群が満開です。ハルサザンカ群が咲きだしています。



伊豆立寒 (カンツバキ群)



玉姫 (カンツバキ群)



綾昭和の栄 (カンツバキ群)



発心桜 (カンツバキ群)



讃岐 (ハルサザンカ群)



東牡丹 (ハルサザンカ群)

サザンカ展の楽しみかた

名前：多くの園芸品種には、作出した方がつけた名前があります。昔の物語や中国の漢詩、謡曲などから取られたものが多々あります。サザンカにもそのような名が付けられているものがあります。また〇〇の舞、〇〇の蝶など、花びらが咲き始めから変化していく様子を名につけたものもあります。



朝日鶴（サザンカ群）

花びらがだんだんと反り返っていきます



千代鶴（サザンカ群）

花びらが反り返って盛り上がって生きます。

スイセン

スイセンはヒガンバナ科スイセン属です。ヒガンバナ科は多くは鱗茎のある多年草で、普通は線形の根出葉がでます。植物苑にはスイセン属のスイセン、ヒガンバナ属のヒガンバナとシロバナマンジュシャゲが栽培されています。花の真ん中に黄色の副花冠と呼ばれるものが目立ちます。花びらそのものではありませんが、花びらの一部や葯が変形してできた付属物は副花冠と呼ばれます。副花冠がいちじるしく、花と葉が同時期にあるスイセン属と、副花冠が小型で、花と葉が別の時期にあるヒガンバナ属があります。

スイセンを横から見ると、花茎の先に薄い膜状の包葉がつき、その中から、数センチの柄を持った花が数個でます。花びらは6枚、下部は合生して筒状となります。上方の内側には黄色の皿のような副花冠があります。花柄の基の緑の濃い少し太くなった部分は子房で中に胚珠がありますが、スイセンは結実する力はありません。



スイセンの学名：*Narcissus tazetta* L.

Narcissus はナルシシズムの語源で、ギリシャ神話にでてくるナルキツソスと言う少年が水にうつる自分の姿に恋して水死、死後スイセンの花になった。*tazetta* は小皿の意味です。(野草図鑑②保育社) 苑内に書かれている和名の下に書かれている斜めの文字は学名で植物の形や特徴がラテン語で書かれているものです。